

I 導入部

おはようございます。2026年の3月1日の日曜礼拝です。2月と同じように、3月も最初の日を礼拝を持って始められることは、本当に幸いな事です。早いもので、2026年もあと、305日を残すのみとなりました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去るですから、あっという間に4月、新学期、新年度が始まります。2月の終わりから大学の卒業式、3月には幼稚園や保育園、小学校、中学高校の卒園式や卒業式があり、別れや悲しみの季節ですが、4月には新しい出会いや新しく始まる出会いもあります。レント、受難節、四旬節を迎えて私たちは、イエス・キリスト様の十字架の苦しみを覚えて過ごしますが、その先には復活の望みがあります。レントの期間を大切に送りたいと思います。

今日は、ルカによる福音書19章37節から44節を通して、「イエス様が見つめているもの」という題でお話し致します。

II 本論部

一、全てのものがイエス様を賛美し褒め称える

37節には、「イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかられたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。」とあります。この記事の前は、イエス様がロバの子に乗ってエルサレムに入城されるという場面です。イエス様は、エルサレムに入城するためには、ロバの子に乗られました。ロバの子は、祭司、貴族、平和の使者たちの乗り物と言われており、ロバは平和の表徴であり、旧約聖書には、「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者高ぶることなく、ろばに乗って来る雌ろばの子であるろばに乗って。」（ゼカリヤ9:9）という預言の言葉があるので、イエス様は平和の君としてロバの子に乗ってエルサレムに入城されたのです。エルサレムは、「神の平和、平和の都、平和の基礎」を意味するようです。イエス様の弟子たちの群れは、イエス様が今までになされた数々の奇跡の目撃者なので、大声で喜び、神様を賛美したのです。何を賛美したかというところ38節にあります。「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」リビングバイブルには、「神様がお立くださったわれらの王に祝福があるように。天よ、喜べ。いと高き天で、神様に栄光があるように！」とあります。イエス様が誕生した時、天使に大軍が加わり賛美した内容と似ています。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカ2:14）と。弟子たちの賛美には、「地には平和」というのがありません。地に平和をもたらすためにイエス様は人となって人間の世界に来てくださいました。ですから、イエス様を救い主として、武力や力ではなく、平和の神、十字架と復活を通して地に平和をもたらして下さるお方として見るべきでしたが、弟子たちは、イエス様が力、権力を持ってローマの圧政から解放し平和をもたらして下さると期待していたのです。イエス様をメシア的存在として賛美する弟子たちの姿を見てファリサイ派の人々は、39節ですが、「すると、ファリサイ派のある人々が、群衆の中からイエスに向かって、

先生、お弟子たちを叱ってください」と言った。」とあります。今までは、イエス様は弟子たちにご自分がメシアであることを話さないように、広めないようにと語って来られました。しかし、十字架につくためにエルサレムに入城されたイエス様は、「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」という賛美を控えるようにとは言いませんでした。40節には、「イエスはお答えになった。「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す。」」とあります。弟子たちが黙れば、石が叫び出すと言われたのです。ここでは石というのは、城壁の石、神殿の石を指します。石が叫ぶということはどういうことでしょうか。旧約聖書には「まことに石は石垣から叫び梁は建物からそれに答えている。」(ハバクク 2:11)とあります。ここで言われている「石は石垣から叫び」というのは、そういう不正をしている者に対して、普段は沈黙している石ですら、そのことを告発して叫び出すというような意味です。また、カインに殺されたアベルの血の叫びは、カインによって殺されたアベルの血は土の中から神に向かって叫んでいるという神の言葉があります。石にしろ、土にせよ、普段は沈黙しているものが、人間の不正に対しては、その普段は沈黙している石ですら、土ですら、叫び出すということです。ここでイエス様が「もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」という言葉は、不正を告発するとか、あるいは殺された者の怨念の叫びでもなく、人々が神を賛美する言葉を封じ込めるならば、石も叫ぶということです。弟子たちは自分の願うような救い主像を念頭に神様を賛美し、イエス様を歓迎しているのです。私たちは、このレントの季節、イエス様が私のために十字架について罪の赦しを与える救い主として来て下さった事を覚えて賛美をささげたいのです。

二、大声をあげて泣き、涙をポロポロ流されるイエス様

41節、42節を見ると、「エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。」とあります。リビングバイブルには、「さらにエルサレムに近づいた時、イエスは都をごらんになり、はらはらと涙をこぼされました。「永遠の平和が、すぐ手の届くところにあったのに、あなたはそれをはねつけてしまいました。もう遅すぎます。」とあります。ルカによる福音書13章34節には、「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。」とイエス様は言っておられます。イエス様が泣くというのは、聖書で2か所しかありません。もう一か所は、ヨハネによる福音書でラザロが死んで墓に葬られ、マリアたちが泣き悲しんでいる時、「イエスは涙を流された。」(11:25)とあります。今日の箇所では、イエス様は都のため、エルサレムのために泣かれたのです。リビングバイブルには、「はらはらと涙をこぼされました。」とあるように、原語では、「クライヨウ」という言葉が使われており、「大粒の涙を流して、大声を出して泣くさま」を現す言葉です。イエス様は、自分を抑えることができないほどに動揺してエルサレムのために大声を出して、涙をポロポロと流されたのでした。それは、ご自分がエルサレムで十字架にかかれて死ぬから涙を流した、大声で泣いたのではありませ

た。エルサレムが、滅びようとしていることを思って涙を流され大声で泣かれたのです。43節、44節には、「やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからでる。」とあります。リビングバイブルを見ると、「敵が、城壁に土塁を築き、あなたを包囲し、攻め寄せ、子供たちもろとも、地面にたたきつけるでしょう。一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊されるのです。せつかく神が機会を与えてくださったのに、それをはねつけた罰です。」とあります。「やがて時が来て」という時とは、AD70年に起こる、ローマ軍がエルサレムに来て壘を築き、包囲して四方から攻め寄せ、ローマ軍がエルサレムの住民を虐殺し、エルサレムが完全に崩壊することです。エルサレムが崩壊する理由は、42節にある「**お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。**」というエルサレムの人々が、「平和への道をわきまえていなかった」からなのです。「**平和への道**」の「**平和**」とは、38節にあった「**天には平和、いと高きところには栄光。**」の「**天には平和**」の「**平和**」、父なる神様の平和の計画、イエス様を通して実現する平和をエルサレムの人々は、わきまえていなかった。知らなかったのです。「**しかし今は、それがお前には見えない。**」とは、「今お前の目からは隠されている」ということなのです。心の目には覆いがあり、隠されていて、イエス様が与える平和を信じて、その恵みを受け取らなかったのです。私たちは、目の覆いがとられて、イエス様の十字架と復活を通して与えられる神様との平和、救いを自分のものとされていることを感謝したいのです。

三、イエス様が訪れて下さることを意識し信じる

44節の最後には、「それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからでる。」とあります。リビングバイブルでは、「せつかく神が機会を与えてくださったのに、それをはねつけた罰です。」とあります。イエス様を通して与えられる平和をわきまえないということは、「神の訪れてくださる時をわきまえなかった」、「せつかく神が機会を与えてくださったのに、それをはねつけた罰」だと言うのです。エルサレムが崩壊する、滅びることは、ここにあるのです。神様の訪れの時とは、イエス様がロバの子に乗られてエルサレムに入城された時ということになるのでしょうか。イエス様がエルサレムに入城された、その日の金曜日に全人類の罪の身代わりに十字架にかかり、裁かれ、尊い血を流し、命をささげられ、死んで墓に葬られ、三日目に復活したという神様の救いの計画の実現があるので、その意味ではイエス様のエルサレム入城は神様の訪れの時なのです。イエス様の十字架と復活を通して、私たちの過去、現在の全ての罪が赦され、やがて未来に犯す全ての罪を赦し、きよめ、義とし、死んでも生きる命、復活の命、永遠の命、天国の望みが与えられる、神様との平和が与えられるのです。イエス様の弟子たちの群れは、「**「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」**」と讚美しましたが、エルサレムの人々は賛美しなかったのです。イエス様こそが、「**主の名によって来られる方、王**」であることをわきまえていなかったのです。神様の訪れの時とは、イエス様が人間の世界に誕生された時をも指すのでしょうか。イエス様の誕生からナザ

レでの生活、宣教活動、十字架と復活、昇天というイエス様のご生涯をも指すのでしよう。それと同時に、今も聖霊の働きを通して神様の訪れの時は続いているのだと思うのです。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28:20) と語られたように、今も私たちと共におられるのです。私たちの所に訪れて下さるのです。今も聖霊なる神様がイエス様の十字架と復活、福音を通して救いの御業を示して下さる、救って下さるのです。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」(ヨハネの黙示録 3:20) と聖書は語ります。イエス様は心の戸をたたき続けていて下さるのです。リビングバイブルには、「ごらんなさい。わたしは戸の外で、しきりにたたいています。その呼びかけにこたえて戸を開ける人なら、だれとでも、わたしは中に入って、親しく語り合います。そして、お互いに楽しい時を過ごすのです。」とあります。神様の訪れは、救い主イエス様の訪れは、今も変わることなく続いているのです。私たちのキリスト者としての信仰生活の中に、家庭生活の中に、社会生活の中に訪れていて下さるのです。私たちの厳しい状況や環境の中に訪れていて下さるのです。辛い仕事や勉強、困難な生活や人間関係の中で苦しみ悶えている私たちの所にイエス様は訪れていて下さるのです。何かの責任を与えられ、その責任を果たすために苦勞し、悩み続けている私たちの所にイエス様は訪れていて下さるのです。キリスト者として、まじめに、誠実に、神様の言葉を信じて守ろうとする私たち、キリスト者として与えられた奉仕や責任を果たすために疲れ、迷いの中にある私たちの所にイエス様は訪れていて下さるのです。語って下さるのです。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28-30) と。リビングバイブルには、「重いくびきを負って働かされ、疲れはてている人たちよ。さあ、わたしのところに来なさい。あなたがたを休ませてあげましょう。わたしはやさしく、謙遜な者ですから、それこそ負いやすいわたしのくびきを、わたしといっしょに負って、わたしの教えを受けなさい。そうすれば、あなたがたのたましいは安らかになります。わたしが与えるのは、軽い荷物だけだからです。」とあります。私たちは、共におられるお方、私の所に訪れて下さるイエス様のもとに荷を降ろし安心して休むことができるのです。

Ⅲ 結論部

「エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて」とあるように、イエス様は私たち人間の世界を見つめておられます。そして、その悲惨な現実のゆえに涙を流しておられる、大声を出して、涙をポロポロと流しておられるのでしょうか。あなたの生き方を見て、あなたの信仰を見て大声を出して泣いておられるのでしょうか。マリヤがイエス様が来られたのにラザロの死について泣いている、その不信仰の姿に「イエスは涙を流された。」と聖書は語ります。イエス様は、すでに十字架にかかり死んでよみがえって下さったという神様の救いのご計画、福音のゆえに、全ての人の救いを願っておられます。ですから、イエス様の事を知らないで、わきまえないで、滅びに向かっている

多くの人々のために、日々大声をあげて、涙をポロポロと涙を流し続けておられるのでしょうか。あなたのためにです。私たちはイエス様の流された涙を自分の涙としたいのです。イエス様が大声をあげて泣かれたことを自分のこととしたいのです。今日の礼拝招詞は、哀歌の3章49節、50節の言葉でした。「わたしの目は休むことなく涙を流し続ける。主が天から見下ろし目を留めてくださるときまで。」リビングバイブルには、「同胞が減んでいくので、昼となく夜となく、私の目から涙があふれ落ちます。ああ、神様が天から見下ろして、私の叫びに答えてくださるとよいのに。」とあります。私たちは、愛する家族のために、夫のために、妻のために、両親のために、子どもたちのために、孫たちのために、親戚のために、職場や学校関係の人々のために、近隣の人々のために、すでにイエス様の十字架と復活のみ業は完成されているのです。神様の側では、イエス様の十字架と復活のみ業のゆえに、全ての人の罪は赦され、義とされ、清められ、死んでも生きる命、復活の命、永遠の命、天国の望みは与えられているのです。私たちは、イエス様がそうであったように、私たちの愛する人々の救いのために、関係ある方々の救いのために、涙を流して祈り続けようではありませんか。イエス様が見つめていたものは、全ての人に救いの確信が与えられ、自分にも価値があることを知り、神様の前には尊い存在であることを知り、イエス様と共に、喜びと感謝の歩みをする事だと思ふのです。私たちは、この週、イエス様が私の事を覚え、祈っていて下さることを信じ感謝しつつ、私も家族から、親戚から、友人から、知人から救われる方々が起こされるように日々祈りをささげたいのです。まず、救われている私が、イエス様が共におられることを信じて、全ての悩みや重荷をイエス様にお委ねして、お任せして、この週も歩んでまいりましょう。